

[論 文]

## 短期大学女子学生の自己価値と自意識

Self-worth and self-consciousness of female junior college students

柴 田 雄 企

Shibata Yuki

### ABSTRACT

In order to clarify the characteristic of self-worth in Japanese female junior college students, I performed the Japanese version of Harter's Self-Perception Profile for College Students (SPPCS) and self-consciousness scale. 102 female junior college students were assessed based on these scales. It was found that there were negative correlations between self-consciousness and global-self worth, social-acceptance, close friendships, romantic relationships, and humor of SPPCS. It was also found that Japanese female college students demonstrated lower self-worth scores compared with American female college students. These findings emphasize the significance of global self-worth and its components when both assessing and counseling Japanese female adolescents.

Key Words: SPPCS, self-perception, self-worth, self-consciousness, female junior college students

### 【問題と目的】

大学の健康管理センターの精神保健部門に来談する女子学生は、男子学生を上回っている(磯田, 1997)。一ノ瀬・村田(1998)は、女子大学生の精神保健相談や心理療法を行う際の基礎資料を得るため、女子大学生の心理学的特性を明らかにすることを目的として調査研究を行った。その結果、抑うつ傾向を抱えている者が多く、さらに総体的自己価値が低く、自分に自信や誇りを持ってない者が多かった。また、女子学生の自己評価では、とりわけ人間関係の如何が重要となることを指摘している。特に、一ノ瀬ら(1998)は、総体的自己価値と社会的受容の相関の高さから、女子大学生は他者の評価を自己評価として取り入れる傾向が強いのではないかと考察している。この考察が妥当であれば、他者評価を自己評価として取り入れる傾向の高さと自己価値には何らかの関連があると考えられる。

そこで、本研究では女子学生の自己価値のあり方の特徴と、自己価値と自意識の関係を検討することにした。自意識 (self-consciousness) とは、「自分自身をどのように考えて

いるか」という概念であり、これは私的自意識と公的自意識に分けられる。前者は自分の感情や動機など、本人のみが体験しうる自己の側面を指し、後者は他者の目に映る自分自身に注意が向きやすい側面のことを指す。

公的自意識の強い人は、周囲の人からの目や評価をいつも気かけ、周囲の人の視点から自分を見つめる傾向が強い。そのため、自分に対して自己卑下的評価をする傾向も強いと予想される。よって、公的自意識が強い人は自己価値が低いと考えられる。

これまでの自意識と自尊感情との関連については、公的自意識とRosenberg (1965) のいう自分を「これでよい」と考える自尊感情との関連が検討されている。しかし、自尊感情のその他の側面との関連については検討されていない。そこで、本研究では自意識と自己価値の関連を検討するにあたり、自己価値を捉えるために、Harterら (1987) の大学生用自己認識プロフィール (Self-Perception Profile for College Students: 以下、SPPCS) を用いることにした。この尺度では、各個人の総体的自己価値および具体的領域ごとの自己評価を捉えることができる。

本研究では、短期大学女子学生のカウンセリングを行う際の基礎資料を得るため、自己価値のあり方と自意識について質問紙調査を行うことにした。

## 【方法】

### 1. 対象者

短期大学女子学生102名を分析対象とした。

### 2. 調査時期

2002年11月に実施した。

### 3. 手続き

大学生用自己認識プロフィールおよび自意識尺度を用いてアンケート調査（無記名）を行った。

#### (1) 大学生用自己認識プロフィール

女子学生の自己価値を捉えるために、一ノ瀬ら (1998) でも用いられた、Harterら (1987) の大学生用自己認識プロフィール (SPPCS) を用いた。これは自分自身をどのようにとらえているか、また自分自身の価値をどのように評価しているかを測定するためのスケールである。

総体的自己価値との関連の強さから自己認識の特性を見極めるものであり、4件法で、得点の高さは自己評価の高さを示す。13の下位尺度は、総体的自己価値 (Global Self-Worth), 職業能力 (アルバイトについて) (Job Competence), 学力 (Scholastic Competence), 社会的受容 (Social Acceptance), 容姿 (Appearance), 親子関係 (Parent Relationships), 親友 (close friendships), 知性 (Intellectual Ability), モラル (Morality), 恋愛関係 (Romantic Relationships), ユーモア (Humor), 創造性 (Creativity), 運動能力 (Athletic Competence) である。総体的自己価値は6項目から成り、他の12の下位尺度は4項目から成る。

#### (2) 自意識尺度

自意識を測定するために菅原 (1984) による自意識尺度日本語版を用いた。これは

Fenigstein, Scheier, Buss (1975) が作成した自意識尺度 (self-consciousness scale) から社会的不安尺度を省いた、私的自意識尺度と公的自意識尺度から構成されている。私的自意識に関する10項目と公的自意識に関する11項目から成る。私的自意識は自分の感情や思考、動機など、本人のみが体験しうる自己の内的側面に注意を向けやすい傾向を指し、公的自意識は他者の目に映る自分、自己の外的側面に注意が向きやすい傾向を示すと考えられている。評定は5件法(「あてはまらない」が1、「ややあてはまらない」が2、「どちらともいえない」が3、「ややあてはまる」が4、「あてはまる」が5)で行った。合計得点が高いほど自意識が高いことを表すように、各対象者の得点を算出した。

## 【結 果】

### 1. 自己認識プロフィール内における、総体的自己価値とその他の下位項目との相関

本研究のSPPCSの各下位尺度の平均値と一ノ瀬ら (1998) における短大生の平均値を表1に示した。また、本研究のSPPCSの総体的自己価値と各下位尺度の相関係数を表1に示した。一ノ瀬ら (1998) の短大生の結果もあわせて表1に示した。

結果、社会的受容 ( $r = .67$ ) で最も高い相関が見られた。次いで、恋愛関係 ( $r = .64$ )、知性 ( $r = .58$ )、容姿 ( $r = .54$ )、創造性 ( $r = .44$ )、学力 ( $r = .43$ )、運動能力 ( $r = .40$ )、親友 ( $r = .38$ )、職業能力 ( $r = .37$ )、ユーモア ( $r = .33$ )、モラル ( $r = .24$ ) の順であった。一ノ瀬ら (1998) の結果の短大生の部分と本研究の結果を比較すると、ほぼ同様の結果であった(表1)。

表1 SPPCSの各下位尺度の平均値および総体的自己価値と各下位尺度の相関係数

	平均値		相関係数	
	本研究	一ノ瀬ら	本研究	一ノ瀬ら
社会的受容	2.35(.61)	2.58(.59)	0.67 **	0.56 **
恋愛関係	1.88(.64)	2.08(.69)	0.64 **	0.41 **
知性	2.15(.62)	2.11(.53)	0.58 **	0.44 **
容姿	1.72(.55)	1.77(.66)	0.54 **	0.45 **
創造性	2.38(.71)	2.45(.67)	0.44 **	0.26 **
学力	2.22(.49)	2.17(.54)	0.43 **	0.37 **
運動能力	2.19(.79)	2.34(.80)	0.40 **	0.18 *
親友	2.84(.76)	3.21(.75)	0.38 **	0.34 **
職業能力	2.49(.66)	2.72(.54)	0.37 **	0.27 **
ユーモア	2.77(.67)	2.78(.68)	0.33 **	0.39 **
モラル	2.53(.50)	2.72(.49)	0.24 **	0.29 **
親子関係	3.18(.60)	3.21(.69)	0.15	0.30 **
総体的自己価値	2.07(.57)	2.30(.58)		

\*\* =  $p < .01$ , \* =  $p < .05$ , ( ) 内は標準偏差

## 2. 自己認識プロフィールの各項目と自意識との相関

自己認識プロフィール得点と公的自意識得点および私的自意識得点の相関係数を表2に示した。なお、公的自意識の平均値は48.85で、私的自意識の平均値は42.26であった。

結果、自己認識プロフィール得点と公的自意識得点では、ユーモア ( $r = -.44$ )、社会的受容 ( $r = -.32$ )、総体的自己価値 ( $r = -.30$ )、親友 ( $r = -.23$ ) において、1%水準で相関が見られた。また、恋愛関係との間に、5%水準で有意な相関が見られた ( $r = -.20$ )。

自己認識プロフィール得点と私的自意識得点では、総体的自己価値 ( $r = -.26$ )、社会的受容 ( $r = -.24$ )、ユーモア ( $r = -.23$ ) と1%水準で有意な相関が見られた。また、親友 ( $r = -.22$ )、恋愛関係 ( $r = -.21$ ) との間に、5%水準で有意な相関が見られた。

表2 自己認識プロフィールの各下位尺度と自意識の相関係数

	公的自意識	私的自意識
総体的自己価値	-0.30 **	-0.26 **
職業能力	-0.10	-0.09
学力	0.02	0.13
社会的受容	-0.32 **	-0.24 **
容姿	0.02	-0.09
親子関係	0.03	0.09
親友	-0.23 **	-0.22 *
知性	-0.06	0.04
モラル	0.00	0.14
恋愛関係	-0.20 *	-0.21 *
ユーモア	-0.44 **	-0.23 **
創造性	-0.15	0.04
運動能力	-0.14	-0.16

\*\* =  $p < .01$ , \* =  $p < .05$

### 【考察】

#### 1. 自己認識プロフィールの総体的自己価値とその他の下位尺度の関係

自己認識プロフィールにおける総体的自己価値とその他の下位尺度の関係をみると、社会的受容との間に高い相関がみられ、一ノ瀬ら (1998) と同様の結果が得られた (表1)。これは、女子学生の自己評価に、社会の中で上手くやれているかという社会的受容が大きく関係していることを示すものであると考えられる。大学別、学部別に、総体的自己価値とその他の尺度との相関を見た、一ノ瀬ら (1998) では、どの大学、学部の女子学生においても社会的受容が自己価値と最も関連が強かった。10代後半から20代前半の青年

は一般に個人主義になったと言われるが、本研究の結果からは、それとは異なり、周囲の評価によって自分自身を評価するといった青年の姿が示唆された。また、本研究では、総体的自己価値と親子関係に有意な相関が見られず、この点で一ノ瀬ら（1998）の結果と違いが見られた。

一ノ瀬ら（1998）によると、短大生は社会的受容、容姿、知性の順で、総体的自己価値を保っているとされていた。一方、本研究においては社会的受容、恋愛関係、知性、容姿という順になり、若干の差異がみられた。

短大生の総体的自己価値の平均をみると、一ノ瀬ら（1998）では2.30であり、女子学生の中に、自分に自信やほこりを持たずにいる者が多いことが示されていた。本研究のSPPCSの総体的自己価値の平均は2.07とさらに低い値であった（表1）。短大生の自己価値は依然として低いままであることがうかがえる。単純に比較することはできないが、SPPCSの原版を用いて行われたアメリカの女子学生の総体的自己価値得点の平均値は、3.17となっている。

## 2. 自己価値と自意識との関係

公的自意識と自己認識プロフィールのユーモア、社会的受容、総体的自己価値、親友、恋愛関係との間に有意な相関がみられた（表2）。

まず、ユーモアで最も高い負の相関がみられた（ $r = -.44$ ）。これは公的自意識の強い者ほど、物事を楽観的に考えられないことを示している。他者の目に映る自分自身に注意が向きやすい者ほど、自分の失敗を笑い飛ばすことができないことがうかがわれる。公的自意識が強く、自尊感情が低い者に、シャイネスが顕著に認められるという報告もある（菅原，1998）。

また、公的自意識と社会的受容および総体的自己価値に有意な相関がみられた。これは、女子学生の自己評価には他者の評価が大きく関係していることを示すものであり、一ノ瀬ら（1998）の「女子学生は他人の評価を自己価値として取り入れる傾向が強いのではないか」という指摘を支持する結果である。

公的自意識は親友、恋愛関係とも相関がみられた。これは、これらの尺度の項目内容が、親友関係、恋愛関係を築くことができ、親友、異性に受け入れられるかというものであるからと考えられる。

私的自意識と相関がみられた自己認識プロフィールの下位尺度（総体的自己価値、社会的受容、ユーモア、親友、恋愛関係）は、公的自意識の場合と同様であった。これは公的自意識と私的自意識に中程度の正の相関関係（ $r = .48, p < .01$ ）があったためであろう。

## 【引用文献】

- Fenigstein, A., Scheier, M. F., Buss, A. H. 1975 Public and private self-consciousness: Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 43, 522-527.
- Harter, S. and Neemann, J. 1987 Manual for the Self-Perception Profile for College students. Unpublished manuscript, University of Denver.
- 一ノ瀬裕子・村田豊久 1998 現代女子大学生の心理的特性についての研究 九州神経精神医学, 44, 147-154

- 磯田雄二郎 1997 精神健康調査の現状 学生の健康白書1995－基本編－ 国立大学等保健管理施設協議会, 175-184
- Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton University Press.
- 菅原健介 1984 自意識尺度 (self-consciousness scale) 日本語版作成の試み 心理学研究, 55, 184-188
- 菅原健介 1998 シャイネスにおける対人不安傾向と対人消極傾向 性格心理学研究, 7, 22-32

**【付 記】**

本研究の調査にご協力いただきました皆様に深謝いたします。データの収集にあたっては、秦智恵子さん、橋本由美さん、堀川見佐子さん（大分県立芸術文化短期大学2002年度卒業）にご協力をいただきました。記して感謝いたします。